

令和5年度 第2回 静岡市立日本平動物園運営委員会議事録

日 時 令和6年3月26日(火) 午後2時00分から午後3時00分まで

場 所 日本平動物園 2階 大会議室

出席者 運営委員：小山委員長、田宮委員、松田委員、増田委員、矢作委員、永岡委員、高委員
事務局：竹下参与兼日本平動物園長、金澤飼育担当課長兼飼育第2係長、山本参事兼園長補佐、市川施設係長、岡村飼育第1係長、塩野動物病院係長、望月主査、山脇主任主事
オブザーバー：一般財団法人 静岡市動物園協会 三宅事務局参与
傍聴者：2人

内 容

- 1 開会
- 2 園長あいさつ
- 3 議事等
 - (1) 令和5年度事業実績見込・令和6年度事業計画
 - (2) 令和5年度事業報告
 - (3) 令和6年度事業計画
 - (4) 大型動物導入推進事業について
- 4 事務連絡等
- 5 閉会

< 議 事 録 >

【開 会】

(司会：山本参事)

会議は公開とすること、傍聴者は定員3人のところ2人であること、委員の出席は7名中7名であることを報告。

【園長あいさつ】

(竹下園長)

今年度の主な事業としては、令和4年の台風15号による影響で被災した山頂斜面の復旧工事や、同年に死亡したアジアゾウのシャンティの全身骨格標本の作製のほか、キャッシュレス決済開始などを行った。誘客対策として、新たに冬の動物園まつりの初開催や山頂広場の再開に伴うミニマルシェなどのイベントを実施してきたが、入園者数は伸び悩んでおり令和3年度並みである。令和6年度は開園55周年に当たることから、盛り上げていきたい。

現委員におかれては、今回が任期中最後の運営委員会となる。これまで当園の運営に関して、様々な意見等いただき、感謝申し上げます。今年度の実績報告や来年度の事業計画等について、忌憚のない意見などをいただきたい。

【議 事】

(小山委員長)

規則に基づき議長を務める。会議が円滑に進むよう委員各位の協力をお願いしたい。

次第に沿って項番3の(1)から(4)の令和5年度の事業実績見込及び令和6年度事業計画などについて一括して概要説明をお願いします。

【事務局説明】

議事(1) 令和5年度事業実績見込・令和6年度事業計画(説明:山本参事)

資料を基に各項目について補足説明。

① 令和5年度の入園者数について

令和5年度の入園者数は、2月末現在で36万8千655人となっているが、3月24日現在40万1千626人となっている。前年度同日比で91.5%、37,544人の減となっている。

議事(2) 令和5年度事業報告(説明:山本参事)

① 入園者数の推移について

令和6年3月の見込み入園者数を50,000人としているが、3月24日現在で32,971人のため、同月の見込み入園者数は45,000人を見込んでいる。

そのため、今年度の入園者数の総計は、41万人程度と考えている。

② 主な事業実績について(説明:山本参事)

主な事業実績は記載のとおり。

冒頭にも触れたが新たな試みとして、8ページ中段にある「日本平動物園に行こう」を試行した。これは誰もが楽しめる動物園を目指し、全国の動物園でも実施している取り組みで、当園での本格実施を念頭に運用面や問題点などの検証を行った。この外9ページの「オクシズ・しずまえミニマルシェ」は、長らく閉鎖していた山頂展望広場を舞台に、静岡市のおいしいものを集めたミニマルシェと多彩な音楽を楽しむミニコンサートを開催した。

また、10ページの企業との連携事業等の実績は記載のとおりで、今年度も多種多様な寄附を賜り、また動物飼料の新たな連携を始められたことは大きいと考えている。

③ 教育・環境教育について(説明:金澤飼育担当課長)

令和4年5月5日に死亡した当園のシンボリック動物であるアジアゾウの『シャンティ』の全身骨格標本を、昨年12月16日からビジターセンターで展示を開始した。この展示では、実物の標本だけではなく、全身骨格の3Dデータを用いた解説用デジタルコンテンツも併用し、希少なアジアゾウの骨格について詳しく学習できる機会を提供している。

また、ティーチャーズガイドの更新を静岡大学との連携により実施し、SDGs普及啓発ツール『ティーチャーズガイド New Edition』を制作。園内での校外学習などに活用していく予定。

④ 展示動物の近況報告について(説明:岡村飼育第1係長)

繁殖に向け、ホッキョクグマ、レッサーパンダのペア同居を開始した。

⑤ 繁殖、来園・出園動物について（説明：塩野動物病院係長）

繁殖動物については、36年ぶりに誕生したチリーフラミンゴの人工孵化に成功し、現在はフライングメガドームの群れに合流し、問題なく成育している。

来園・出園動物については記載のとおりで、12月以降集中した。主な来園動物としてはサイチョウやレッサーパンダの守守（ショウショウ）の外、夜行性動物館のキンカジュウやフェネックである。このほかマンドリルの雌雄が来園し、現在飼育しているメス2頭との同居を進めている。

出園動物は、レッサーパンダの縞縞が豊橋総合動植物園公園に、ジャガーの小春が天王寺動物園に出園している。なお、レッサーパンダの守守は、当園から出園した縞縞（ガオガオ）の弟である。

⑥ 修繕業務について（説明：市川施設係長）

大きく2つの施設修繕を実施した。

ひとつ目は、オオアクリク舎大規模改修工事で、老朽化に伴う施設の長寿命化を目指し、屋外防水や電気設備等の改修をした。

ふたつ目は、展望広場東側斜面における災害復旧工事等で、令和4年9月の台風15号により被災した展望広場東側斜面の復旧と被災により撤去したローラスライダー部分を接続する新たな専用園路の設置などを行った。この工事の完了により、今年2月1日より供用再開した。

議事（3）令和6年度事業計画（説明：山本参事）

令和6年度の事業計画の主要事業は記載のとおりで、これまでどおり動物園の使命である4つの役割について取り組んでいく。

このうち新たな事業としては、18ページ（3）調査・研究の4つ目、「第72回日本動物園水族館協会動物園技術者研究会の開催」、19ページの上から3つ目と4つ目の日本平動物園サポーター認定制度の実施及び「日本平動物園に行こう」の実施継続等を予定している。

20ページの「主な施設修繕」は「山麓山頂駅舎改修修繕」「類人猿舎等冷暖房設置修繕」などを予定している。

議事（4）大型動物導入推進事業（説明：山本参事）

これまでの委員会での説明と同様で、現時点においても特段の進展はない状況である。現状では導入については難しい状況にあると考えている。

事務局からの説明は以上。

【 質 疑 応 答 】

(小山委員長)

事務局の説明について質疑を行う。

(矢作委員)

大型動物の導入について、国内からの導入の当てはあるのか。

(事務局：竹下園長)

国外からの導入が難しい現状下では国内に目を向ける必要性もあるが、繁殖技術等の確立後となるため、長期的なものになると考えている。現時点で当てがあるものではない。

(矢作委員)

現在のゾウのエリアはそのままとなるのか。

(事務局：竹下園長)

新規導入を行う場合、オス1頭、メス3頭の多頭飼育の必要があり、それに適した飼育スペースがある獣舎施設を用意する必要がある。

繰り返しとなるが、現時点では、①国外からの導入が難しいこと。②当園には十分な飼育スペースを持つ獣舎施設がなく、獣舎を新設する必要があること。③本市は様々な大型事業が計画されており、獣舎建設に係る整備は現在の市の財政力では難しいこと。などから総合的にみて、困難な状況である。

(高委員)

大型動物、特にゾウは動物園の目玉であると思う。そうした動物の飼育展示がないと入園者数の現状維持も難しいのではないかと。

(事務局：竹下園長)

大型動物などの目玉動物は子どもたちにも人気があり、集客が期待できる。一方で世界的にも動物たちが健康的で幸せに暮らせるよう動物福祉の向上への対応が求められている。その場合、新たにゾウの導入だけを考えていけば良いのかということもある。動物園としては、動物の福祉についても説明に努め、理解していただき、来園者にもプラスとなるような働きかけができるよう取り組んでいきたい。

(永岡委員)

これまでの説明で、大型動物の導入については、相手国との交渉が難しいこと。それと市側の財政的な問題など、導入が困難であることは分かった。なんとなくゾウが居れば良いと思う人も多いと思うが、市民にも分かるような議論がされると良いと思う。

別件だが、中央図書館で動物園関係の展示を目にした。とても良いと感じたが、この企画はどちらからの提案か。また、動物園のサポーター制度では、動物園協会と協力して、対象者への割引券などの配布があると良いかもしれない。

(事務局：山本参事)

図書館での展示については、動物園側から図書館側に提案したもの。実際の展示については、打ち合わせを重ね、双方が連携して取り組んできた。

(松田委員)

動物福祉について、国外の養豚場などで求められる飼育環境の基準も厳しくなっていると聞く。今後国内でも動物の移動が厳しくなるのかなとも感じている。次の時代の動物園を考えていく必要もあるか。生き物は適正な環境で飼育をしていくことはもちろん、それとは別に今の科学技術などを活用して骨格標本などを違う見せ方ができるような取り組みもできると良いと感じた。

(事務局：竹下園長)

欧米では AI 技術を使用して立体的でその現場に実際に居るような映像が見られるというところもあると聞く。しかし、動物園としては、現場でリアルなおいや泣き声などを感じてもらいたいとも思う。一方でハンディキャップのある方など、なかなか動物園に来られない方などに向けてはそうした技術の活用で楽しんでもらう手法もあると思う。

また、ランドスケープエマージェンシーという考え方では、動物の生息環境を再現し、そこに人間がお邪魔をして観察するというものがあり、国外の動物園ではそうした施設整備が進められているところもある。施設整備には多額の費用もかかるが、これが本来の動物観察の手法ではないかとも感じている。

(増田委員)

小学4年生あたりで、福祉について考えていて、誰もが幸せに暮らせる街づくりを学ぶ機会がある。「動物園に行こう」の試行については、子どもたちにも良い学習教材となると感じた。先ほどの図書館での展示についても、動物園の取組みを知ってもらうきっかけになると思う。子どもたちは、体験や視覚的に見せ方を変えてあげると興味を持って学習に取り組んでくれる。こうしたことがこれからもっと活用されていくと良いと感じた。

(事務局：山本参事)

「動物園に行こう」は、普段なかなか来ることができない重度の障がいのある方を対象に試行した。私の主観ではあるが、イベント終了時、参加者の表情がとても豊かであったことを感じたため、このイベントを企画して良かったと思った。もちろん反省点・改善点もあったので、次の機会に活かしていきたい。

(田宮委員)

動物園の目的をどこに置くかが重要なポイントだと思う。日本平の自然の良さを活かすことや動物とのふれあいを通じた教育など。子どもたちは、動物とのふれあいにより学ぶことが色々あると思う。動物園にしかない動物だけでなく、身近な自然で生きている動物なども見られると良いと思う。

(小山委員長)

様々な取り組みについて、行政の枠を脱して、色々な関係者を巻き込んでいくと、もっと大きな広がりが期待できると思う。

また、動物園は、小さい子どもから高齢者までが訪れる場所。各世代によって動物園に求めていることは違うと思うので、そうしたニーズを把握することで、次の世代が求める、今後の動物園の目指すべき方向性が見えてくると思う。参考にしてほしい。

(小山委員長)

このほか質疑がないようなので、これで終わりとさせていただきます。